

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	二戸市立仁左平中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	7
生徒数	15	14	18	0	47	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導法の工夫
-------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

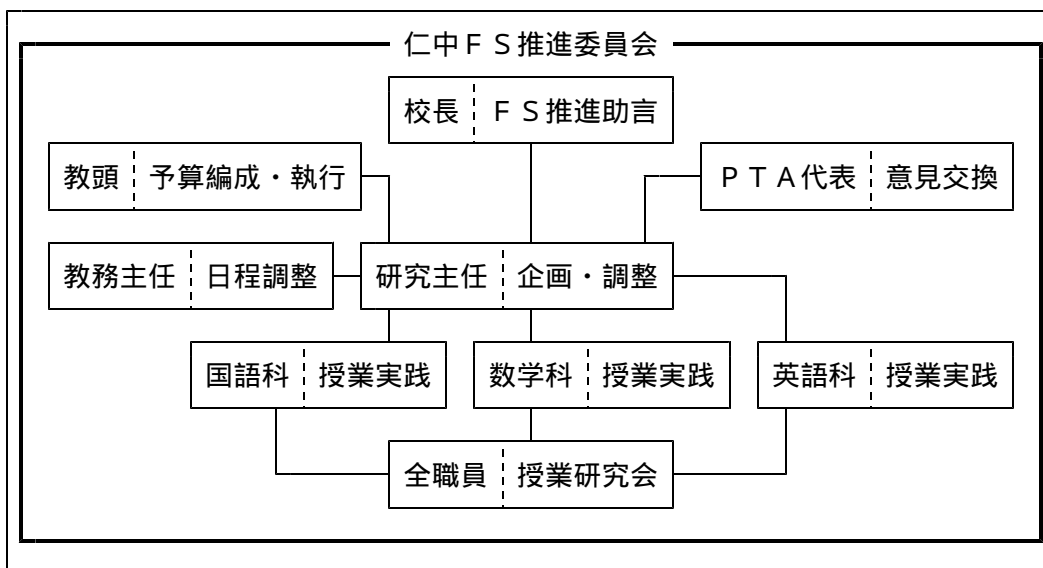
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1学年・国語科・数学科・英語科 中学校最初の学年において、国語・数学・英語の基礎・基本の定着を図ることが大切であると考えたため。</li> <li>・ 第2学年・国語科・数学科・英語科 N R Tの結果から、全国に比べて、落ち込みの領域のある数学・英語とすべての教科の学習の基礎となる国語を設定した。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導法の工夫 研究の見通し 学力向上を図る上での課題をあきらかにし、基礎・基本の定着が不十分な領域の指導を工夫・改善する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 知能検査・N R T・C R T等の結果の客観的資料に基づく生徒の実態把握と分析を行う。</p> <p>(2) 理解や習熟の程度に応じた指導方法の工夫をする。 基礎・基本の定着が不十分な事項についての指導方法の工夫(短い期間の指導)と継続的に補助的な取組(長い期間の指導)を行う。</p> <p>(3) 教科の枠を超えた基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫を行う。 ・ どの教科も教科書を読むことが必要なことから、教科書の読みの指導方法の工夫を行う。(教科の枠を超えた指導)</p> <p>(4) 教育課程と指導方法の工夫を行う。 ・ 第2学年選択数学の補充コース・発展コースの設定とコース毎の指導方法の工夫を行う。</p> <p>(5) 個々の生徒に最適な家庭学習方法の探究・確立をさせる。 ・ 総合的な学習の時間において、個々の生徒に最適な家庭学習の方法(予習・復習)の探究・確立をさせる。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 個に応じた指導法の工夫 研究の見通し 学力向上を図る上での課題をあきらかにし、基礎・基本の定着が不十分な領域の指導を工夫・改善する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 知能検査・N R T・C R T等の結果の客観的資料に基づく生徒の実態把握と分析を行う。</p> <p>(2) 理解や習熟の程度に応じた指導方法の工夫をする。 基礎・基本の定着が不十分な事項についての指導方法の工夫（短い期間の指導）と 継続的に補助的な取組（長い期間の指導）を行う。補助的な取組に朝学習の指導を加える。</p> <p>(3) 教科の枠を超えた基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫を行う。 ・ どの教科も教科書を読めることが必要なことから、教科書の読みの指導方法の工夫を行う。朝学習の時間を活用して、国語の漢字の指導 ・ 読書指導を加える。</p> <p>(4) 教育課程と指導方法の工夫を行う。 ・ 選択教科・コースの設定を充実させる。</p> <p>(5) 個々の生徒に最適な家庭学習方法の探究・確立をさせる。 ・ 日常の予習・復習以外の家庭学習の方法・計画的な学習の確立</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 知能検査・NRT・CRT等の結果の客観的資料に基づく生徒の実態把握と分析を行った。

知能検査の結果に基づく生徒の実態把握と分析

NRTの結果に基づく生徒の実態把握と分析

NRTの結果から、基礎・基本の定着が不十分な事項として、次の(大)領域があげられる。

- ・ 第2学年の数学科において、数と式が落ち込んでいる。
- ・ 同じく英語科において話すこと・読むこと・書くことが落ち込んでいる。

CRTの結果に基づく生徒の実態把握と分析

CRTの結果から、現1年生の国語・数学(算数)において、基礎・基本の定着が不十分な観点、数学的な考え方である。

(2) 理解や習熟の程度に応じた指導方法の工夫をする。

基礎・基本の定着が不十分な事項の指導方法の工夫・継続的に補助的な取組を行う。

国語における実践(その1)

ア 実施学年 第2学年

イ 成果

授業の中で、課題を明確にし、課題解決のための取り組み方を具体的に指示していくことで成果をあげることができた。生徒の変容について、NRTの結果に基づき、数値で示す。

国語科における第2学年のNRTの結果比較

領域 \ 項目	2003/03 実施	2003/11 実施	数値比較	備考
書くこと	1 1 1	1 2 2	+ 1 1	実践領域 実践領域
読むこと	1 0 3	1 0 8	+ 5	

ウ 考察

心情の読み取りは、課題の設定の仕方とその取組方(細部に注意した心情描写の読み取り)を継続することで高められることが分かった。

国語科における実践(その2)

アと同様に第1学年で指導を行い、次のような成果を得た。

授業の中で、課題を明確にし、課題解決のための取り組み方を具体的に指示していくことで成果があげられた。

国語科における第1学年のNRTの結果比較

領域 \ 項目	2003/07 実施	2003/11 実施	数値比較	備考
書くこと	1 2 3	1 2 9	+ 6	実践領域 実践領域
読むこと	1 0 0	1 1 3	+ 1 3	

文の構成については、学期毎に説明文の指導を通して理解を高められることが分かった。

数学科における実践

ア 実施学年 第2学年

イ 成果

検算を必ず書かせるようにした結果、計算ミスに気付くことができるようになり、正答を導き出せる場面が増えた。

数学における第2学年のNRTの結果比較

領域 \ 項目	2003/03 実施	2003/11 実施	数値比較	備考
数と式	7 3	1 1 0	+ 3 7	実践領域

### ウ 考察

昨年度までも検算をするように指導してきたが、生徒任せで書かせるところまでは徹底していなかった。検算を書かせることによって、生徒の思考をフィードバックさせ、計算ミスに気付くことができる力も向上させていると考えられる。検算を書かせることは、正答率をあげるためには、有効であることが分かった。

英語科における実践

ア 実施学年 第2学年

### イ 成果

意味の区切りをあらかじめ示し、区切りを意識させて継続的に音読させることで、一つ一つの単語をまとめた意味のある文章として具体的にとらえさせることができた。

英語科における第2学年のNRTの結果比較

	2003/03 実施		2003/11 実施	数値比較	備考
話すこと	80		110	+30	実践領域
読むこと	89		109	+20	実践領域

### ウ 考察

文章を構成している意味のある単語のまとまりを正しく識別できるようになれば、文全体を正しく認識できるようになり、文全体を正しく認識し、文章全体の把握を容易にすることができるようになる。

- (3) 教科の枠を超えた基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫を行う。  
どの教科も教科書を読むことが必要なことから、教科書の読みの指導方法の工夫を行う。(教科の枠を超えた指導)
- (4) 教育課程と指導方法の工夫を行う。  
第2学年選択数学の補充コース・発展コースの設定とコース毎の指導方法の工夫を行う。指導の領域は、
- (5) 個々の生徒に最適な家庭学習方法の探究・確立をさせる。  
総合的な学習の時間において、グループテーマ研究として取り組み、個々の生徒に最適な家庭学習の方法(予習・復習)の探究・確立をさせた。

## 2. 今後の課題

- (1) 知能検査・NRT・CRT等の結果の客観的資料に基づく生徒の実態把握と分析を行い、知能と学力の相関、生徒の実態把握と分析を行うことができた。  
個々の生徒に視点を当てた分析を十分に行い、理解や習熟の程度に応じた指導方法の工夫の際に生かしたい。
- (2) 基礎・基本の定着がなされていない部分の理解や習熟の程度に応じた指導方法の工夫を行い、定着の状況が改善された。個々の生徒に視点を当てた実態の把握を行いたい。
- (3) どの教科も教科書を読むことが必要なことから、教科書の読みの指導を朝学習を活用して行いたい。
- (4) 選択教科を効果的に設定し、補充・発展コースの指導法を工夫したい。
- (5) 家庭学習における日常の予習・復習の他に長期的な見通しをもった学習方法・計画の立て方の指導を行いたい。

### 学力把握のための学校としての取組

生徒の学習状況の変容を全国基準に準拠して評価するために、NRTを2003年7月・11月に実施した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

県推進会議、地区研究推進会議及び二戸管内の学力向上フロンティアスクールの取組状況を冊子にまとめ発行することにより研究成果の普及を図る。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                               10～12学級  
                                  13～15学級                               16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T.Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語       社会       数学       理科  
                                  外国語       音楽       美術       技術・家庭  
                                  保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無